

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

Vol.30 依存症への向き合い方

前回のコラムでアルコール依存症について触れましたが、依存症は本人だけでなく、家族にも大きな影響を与えます。特に依存症に陥った人の行動や態度が家族の生活を圧迫し、心理的な負担を増大させるケースが多いです。また、家族の「助けたい」という気持ちが、結果的に本人への過度な干渉や責任感を生むことがあり、本人と家族の関係が悪化する悪循環に陥ってしまうことがあります。

しかし、家族の支援は依存症の回復に重要な役割を果たします。本人に温かい言葉を掛けたり共感を示したりすることで、本人の回復への意欲を引き出す可能性が高まります。そのためには、家族が依存症を「本人の弱さ」ではなく病気として捉える視点を持つことが必要です。

依存症からの回復を支える上で、「家族の力」は本人が治療を継続するモチベーションにつながります。一方的な決めつけや非難ではなく、本人への理解と思いやりを持つ姿勢を大切にしましょう。

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

みんなで考えたい ゲノム情報と人権のこと

法務省の人権擁護機関は毎年、人権啓発活動の重点目標を定めています。2025年4月からは、「ゲノム情報（遺伝情報）に関する偏見や差別をなくそう」が新たに加わりました。

ゲノム情報とは、いわば「自分では変えられない体の設計図」です。医療の進歩で身近になった一方、将来の病気のリスクなどに対する不安から、誤解や偏見が生まれることがあります。具体的には、ゲノム情報を理由に保険への加入を断られたり、結婚や就職など、日常生活のさまざまな場面で、不当な扱いやプライバシー侵害につながったりする可能性が懸念されています。

ゲノム情報は、個人の能力や人としての価値を決めるものではありません。誰もが安心して自分らしく生きるためには、正しい知識に基づいて冷静に判断し、偏見を生まない意識を社会全体で育てていくことが大切です。一人ひとりが人権について考え、向き合うことが差別のない未来へつながります。

土岐商写真部×広報とき 土岐の写真を撮り隊 Vol.34 「ひな人形」

冬の寒さも少し和らぎ、春の訪れを感じさせる季節になりました。

ひな人形などの日本の四季を感じさせる文化を大切に、日々を過ごしたいものです。

撮影班 二年 長江湧樹・有賀亮太

